

NETZ Racing

TOYAMA

Race Report 2021 / Vol.10

大会名称	GOODYEAR Yaris & 86/BRZ Dream Cup 2021
開催日程	2021.12.18
場 所	富士スピードウェイ
参加車両	# 123 NETZ TOYAMA Racing Yaris
ドライバー	山口 竜也 松井 孝允 松井 宏太
参加台数	ヤリス 16台
予選順位	1位
決勝順位	1位 (144周)

今年最後のレースが12月18日土曜日に行われた。昨年はコロナウイルスがあり開催されなかったのが2年ぶりとなる開催だ。このレースは早く走ればよいレースではなく、6時間の間にどれだけ周回することができるのか競う大会だ。給油量、ピットストップ時間などが厳密に決められているので作戦や道中のハプニングにどう対処するかなど、チームワーク、チームスキルが大事なレースになっている。当チームは今までに86で2回優勝しているが、ヤリスの前身にあたるヴィッツでの最高順位は8位と上位に食い込んだことは今までない。今年はヤリスでの初大会にあたるのでヤリスに絞り初代チャンピオンを狙い参戦を行った。

チーム作戦としては予選を1位通過し、本選では逃げ切る作戦だ。当日の朝8時、予選が行われた。走行するのはAドライバーで社員ドライバーの山口。路面が乾ききっていないと判断し、残り時間最後のほうに走行を行った。見事作戦通りの1位のタイムで走行することができ、本選では1番グリッドからの走行に決まった。当日10時、6時間に及ぶ長い長いレースが始まった。1時間経過し、ずっと1位をキープしていたが、他チームのマシンがコース上で停止。セーフティカーが入ることになった。セーフティカーが入ると追い抜くことはできないがゆっくりと走らないといけいない。セーフティカーが入ると早く走行することはできないのでその間に給油を行ってしまうのが定石だ。ただ、給油場所は2箇所しかなく、全車両で利用するので列を作ってしまうと規定滞在時間の7分を超えてしまい大幅に時間ロスをする恐れがある。当チームはセーフティカーが出たタイミングですぐにピットに入れない場所を走行しており、入ると大幅なタイムロスになると判断し、そのまま走行を続け、給油場が空いたタイミングでピットインした。結果として判断は悪くはなかったが、すぐに給油できたチームに抜かされる結果になってしまいセーフティカーが解除されたタイミングでは3位に落ちていた。その後事故などはなく、4時間経過した頃にはドライバーの頑張りで1位に戻ることができた。しかし、ここでトラブル発生。前のチームに追いつくためにブレーキを使いすぎ、フロントパッドが無くなってきていた。7分の間に給油、タイヤ交換、フロントパッド交換を行うことになった。今回のメカニックはベテランメンバー2人と新入社員でレース初参戦の3人の5人だ。

急なトラブルだったが普段からお客様のお車を触っている現役メカニック。
阿吽の呼吸でフロントパッド交換のサポート、タイヤ交換を行いきっちり時間内で終わらせることができた。
今思うと、ここのフロントパッド交換をタイムロスなく終わらせることが出来たのが
勝利のキーポイントだった。
その後、順調に走行し6時間経過し無事1位（144周）でチェッカーを受けることができた。
見事ヤリスの初代チャンピオンを獲得することができた。
表彰式ではもう1つ嬉しい出来事があった。
今大会スタート時、一番盛り上げたチームに与えられる「ベストサポート賞」も同時に受賞することができた
ヤリス1位もベストサポート賞もチームメンバー全員でもぎ取った勝利だ。
今大会で今年は最後のレース活動になった。最後に1位という結果で終わることができ、とても嬉しい。
来年もスプリント、ラリー、耐久レースに参戦いたしますので応援のほどよろしくお願いします
1年間、応援ありがとうございました。

